

# 金屋子神にまつわる伝説

中国山地を形成する花崗岩には良質な砂鉄が含まれており、古代から近世にかけてたたら製鉄がさかんに行われていた鉄の一大産地でした。町内でも上齋原、奥津、富、越畑などでたたら製鉄が行われていた遺跡が多く残されています。

こうした製鉄や鍛冶など鉄に関する仕事に従事している人たちが信仰していた神様が「金屋子神」という神様で、たたら製鉄を行っていた集落（山内）や鍛冶場などには金屋子神社（山内）や鍛冶場などには金屋子神社が祀られていました。この金屋子神については、天明四年（一七八四）、現在の鳥取県日野郡の下原重仲が、たたら製鉄の技術、伝承、経営などの記録をまとめた「鉄山必要記事」に書かれている伝承では次のように書かれています。



金屋子神

います。

太古、日照りの日に民が集まって雨ごいをしていたところ、播磨国志相郡（現在の兵庫県宍粟市）の岩鍋というところに高天原から金屋子神が降臨し、人々に金属製品の作り方を教えました。神が居住するような山がなかったため、白鷺に乗って西の方へ赴き、出雲国能義郡の奥非田（現在の島根県安来市広瀬町）の山林に着き、桂の木の上で休んでいたところ、狩りに来ていた安部正重という男と会い、ここに神社（金屋子神社）を建立して正重を神主と



遠藤の金屋子神社

し、金屋子神はこの地で製鉄の方を伝えた。

ということが製鉄の始まりとされています。この神社が各地に祀られている金屋子神社の総本宮で、参道の脇にはたたら製鉄職人から奉納された鉄塊（鋸）が数多く並べられています。寛政三年（一七九二）に金屋子神社が寄付金を集めた鉄山を記録した奉加帳には、安芸、備後、美作、播磨、伯耆、出雲、石見の七か国の鉄山が記載されており、中国山地一帯から信仰を集めていたことがわかります。鏡野町域では至孝農にあった「四口野山」という鉄山の名が書かれています。

さて、この金屋子神は一般的に女性の神とされており、姿絵では女性の姿で白鷺や白狐に乗っているものが多いとみられます。女性であるがゆえに、たたら製鉄を行うにあたっては独特なしきたりがあります。それは、製鉄を行う建物（高殿）には女性が入ってはいけないという掟です。これは、金



越畑の金屋子神社

屋子神が同性である女性を見て嫉妬し、良い鉄ができなくなるといわれているからです。ただ、製鉄は三日三晩不休で行うため、唯一食事の配膳の時に「うなり」とよばれる老婆のみが入りできたようです。

その他にも、犬や蔦、麻などもタブーとされています。これは、金屋子神が降臨した時に犬が吠えかかり、金屋子神が蔦につかまり逃げようとしたら切れてしまった、あるいは麻が足にからまって犬に咬まれて死んでしまったという話もあるからです。また、死体好み、亡くなった人の遺体を柱に立てかけたり、遺骨を炉の中に入れたりすると良い鉄ができるなどの俗説もあります。出雲に降り立った時、桂の木の上のことに、山内に桂の木を植えることもあったようです。富西谷の鍛冶屋谷たたら遺跡にも北部に古い桂の木があります。操業当時に植えられたものかもしれません。

鏡野町域でたたら製鉄が終焉して百年以上が経過しますが、今でも鍛冶屋谷たたら遺跡や遠藤、越畑などかつてたたら製鉄が行われた所では金屋子神が祀られ、往時を偲んでいます。

参考資料：『奥津町史』『鍾と鍛冶』、和銅記念館

H P

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下  
電話(0868)54-7733